

NEWS RELEASE

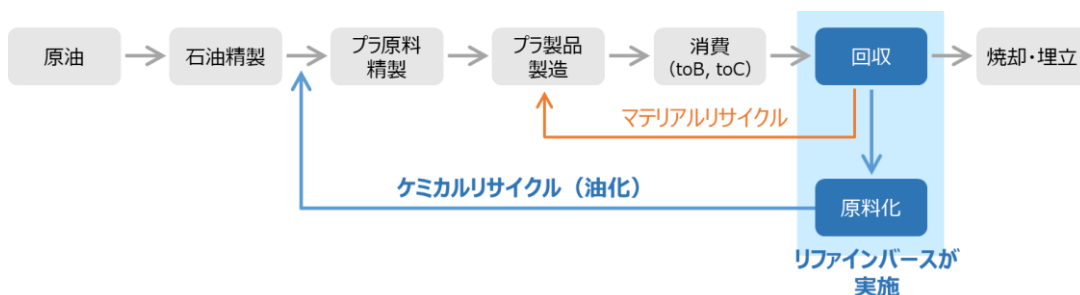
2021年7月21日
株式会社リファインバースグループ
代表者：代表取締役社長 越智 晶
(証券コード：7375 東証マザーズ)

三菱ケミカルのプラスチック油化事業への原料プラスチック供給について

株式会社リファインバースグループ（本社：東京都中央区／代表取締役社長：越智晶）の100%子会社であるリファインバース株式会社（本社：東京都中央区／代表取締役社長：越智晶）は、三菱ケミカル株式会社（本社：東京都千代田区／代表取締役社長：和賀昌之）と、三菱ケミカルの廃プラスチックをリサイクルするプラスチック油化事業への原料プラスチック供給について基本合意書を締結しました。

日本では年間約850万トンの廃プラスチックが発生していますが、廃プラスチックを粉砕・分離・溶解などにより再びプラスチックを製造する「マテリアルリサイクル」という手法で再生されているのは、国内では発生量のうちの1割強に過ぎず、6割以上の廃プラスチックは燃料化・発電焼却といったサーマルリカバリーにより処理されています。サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルの実現に向けて資源循環の推進が求められてきた一方、マテリアルリサイクルでは技術的・品質的課題から処理量が限定されていました。

これに対し三菱ケミカルでは、「ケミカルリサイクル」と呼ばれる手法で廃プラスチックを油化し、新たな化学製品やプラスチックの原料として活用します。このケミカルリサイクルで作られた製品は、従来の石油由来原料と同等の原料として、再びプラスチック製品化されます。また、マテリアルリサイクルよりも幅広い廃プラスチックの再生が可能となります。原料プラスチック製造・供給は2023年の開始を予定しており、本合意に基づき三菱ケミカル社と連携し、ケミカルリサイクルに適した廃プラ原料の品質要件の定義や回収網・安定供給体制の構築を進めてまいります。



当社では最大供給量 2 万トンとした回収網の構築、原料化拠点の新設・原料化設備への投資など、新規事業としての立ち上げを進めてまいります。また、様々な場所で発生している多種多様な廃プラスチックをケミカルリサイクル原料として活用していくために、従来の廃プラスチックのサプライチェーンとは異なる新しいサプライチェーンの構築も視野に、幅広い業種との連携も積極的に取り組んでまいります。

2022 年 6 月期以降の業績に与える影響は軽微であると考えておりますが、業績に重大な影響を与える事象が生じた場合には、速やかに開示いたします。

当社では従来行ってきたカーペットや漁網のマテリアルリサイクルに加えてケミカルリサイクル事業へ参画することで、より多様な廃プラスチックを資源として活用する道を開きサーキュラーエコノミーの推進に貢献してまいります。

お問い合わせ：経営企画部
電話：03-5643-7890